

能を切る



「四賢婦人・矢嶋榎子の生涯」

文 福永無想

第二十回 「大海を越えて」

明治38(1905)年、アメリカのニューハンプシャー州ポーツマスで、日露戦争の講和条約がアメリカ大統領セオドア・ルーズベルトの仲介によって締結した。

その翌年、ボストンで婦人矯風会万国大会の開催が決まった。日本からも参加するようアメリカ本部から伝えられると、会では誰を向かわせるかが検討された。

「代員は大会後、米大統領に面会する重責も担っておりませう。そのお役目を立派に果たせる方は、矢嶋会頭の他にはおられないかと」

一人の会員の発言に周囲は目を見合わせた。いくら精力的に全国の支部を巡り活動してきた榎子といえども、73歳の老齢の身では長い船旅に耐えられないだろう。すると、

「行くのであれば、自費で参ります。私はね、いつも葬式代のお金を身につけているのです。それに長い間蓄えたお金もあります。船賃くらいには足りるでしょう」

榎子はあつけらかんと言つてのけた。皆は、今さらのようにこの奥行きのおれぬ婦人の行動力に驚きを隠せない。一方の榎子にすれば、これ

までの歩みの上で、天に行く道程の務めの一つだと、大決心しての一人旅であった。

翌年の明治39(1906)年の夏、榎子はサンフランシスコの土を踏んだ。港では数年前に渡米した姪の大久保音羽子と娘の落実が出迎えた。音羽子は徳富家に嫁いだ姉・久子の娘である。夫は、同志社の創設者・新島襄の影響を受け、牧師となった熊本出身の大久保真次郎だ。娘が、後に廢娼運動に献身する久布白落実である。「初めまして大叔母さま。ボストンまでは私がご案内いたします」

24歳になった落実は、昼間は父の教会の仕事を手伝い、夜間学校に通っていた。案内役を仰せつかったものの、サンフランシスコからボストンまでは、日本列島の2倍ほどの距離だ。それを往復するのだから、並大抵のことではない。それに榎子は白内障を患っており、体力も持つかどうか心配である。果たして自分一人で、榎子をボストンまで無事に連れていけるだろうか、落実は不安でならなかった。そして数日後、大陸横断の50日間の旅が始まった。

■
どうか榎子たちはボストンに到着することができた。滞在するホテルの玄関には、各国の矯風会の者たちが待っていた。その中に背が高く痩せた、カラスのような黒い服を着た女性がいる。彼女は榎子の姿を見つめるやいなや、興奮気味に声を上げた。

「Madam Yajima of Japan(日本 矢嶋刀自)」

そう言つて駆け寄り、敬意を込めて榎子の手を握つた。スラックという名前のイギリス人だという。彼女の髪の毛と瞳の色が、亡くなった

ミセス・ツルを思い出させる。懐かしくも恋しく、榎子の目が潤んだ。ホテルのベッドに入つても客は絶えず、旅の疲れも見せずに榎子は喜んでそれらの訪問を受けたのだつた。

万国大会は1週間開催され、会場には3千人もの人々が詰めかけた。日本からは榎子と落実、大阪支部の林歌子が出席した。榎子は一日も休むことなく講演し、日本基督教婦人矯風会創立以来の感謝の意を述べ、今後も日本への優秀な人材の派遣を求めたい、など堂々とした発表を行い、全会衆の注目の的となった。

この万国大会に出席した各国の代員たちは、その活動が認められアメリカ大統領から招待を受けていた。榎子たちも、ワシントンにあるホワイトハウスを訪れた。

招待客一同の前に姿を現したセオドア・ルーズベルトは、恰幅のいい体に見事なヒゲをたくわえ、紐付きの鼻眼鏡をかけていた。

「皆さま。ようこそホワイトハウスへ」
そう言つてにこやかに声を掛け、招待客の中に黒紋付きの羽織姿の榎子を見つけると、両手を広げて握手を求めてきた。隣にいた落実は驚いて足がすくんでしまったが、榎子は臆することなく偉軀を見上げてこう言った。

「日本の矢嶋榎子でございます。大統領さま、日露戦争を終わらせていただき、心から感謝もうしあげます。戦いで失った命の尊さと悲しみを思えば、戦争のない平和な世を望みます」

通訳は参席したマコーレー夫人がかつて出た。「ミセス・矢嶋。あなたのその願い、しっかりと受け止めました」

穏やかな声で返されたルーズベルトの言葉は、榎子の胸に深く染み渡るのだった。

※この物語は、矢嶋榎子の資料をもとに描いたフィクションです

※参考文献=「矢嶋榎子伝」(徳富蘇峰・監修、久布白落実・著/不二屋書房)、「矢嶋榎子の生涯と時代の流れ」(齊藤省三・著/熊日新書)、「熊本のハンサムウーマン」(堤克彦・著/熊本出版文化会館)、「矢嶋榎子伝 われ弱ければ」(三浦綾子・著/小学館文庫)、「明治女性史」(村上信彦・著/理論社)、「まんが四賢婦人物語」(益城町)

四賢婦人記念館

益城町杉堂1250 電話/286-4959

開館/9時30分~16時30分 休館/月曜(祝日の場合は翌日)

入館料/一般・高校生200円(160円)、小中学生100円(80円)

※()は30人以上の団体割引料金

